

# GARDEN MAP

ホテル椿山荘東京  
庭園のご案内

## レストラン

イル・テアトロ [イタリア料理・3F]  
みゆき [日本料理・2F]  
ザ・ピストロ [カジュアルダイニング・3F]  
ル・ジャルダン [ロビーラウンジ・3F]  
ル・マーキー [メインバー・2F]  
フォレスト [カフェ・3F]

## 出入口ご案内

史蹟・景勝

七福神

## レストラン(庭園)

錦水 [料亭]  
木春堂 [石焼料理]  
奈良菊水楼 うな菊 [饅頭専門店] (2023.3.15 OPEN)



世界をもてなす、日本がある。

# ホテル椿山荘東京 庭園

春は桜。夏は深緑。秋は月紅葉。冬は雪椿。日本の四季が豊かな表情を咲かせるホテル椿山荘東京。この周辺は、古来より椿が自生する景勝の地として知られ、1300年代の南北朝期の頃から「つばきやま」と呼ばれていました。江戸期の浮世絵師・歌川広重作「名所江戸百景」でも取り上げられており、往時の賑わいを伺い知ることができます。

明治維新を迎えると、長州藩士で新政府の礎を築いた元勲・山縣有朋公爵が、明治11年私財を投じてこの地を購入。起伏豊かな地形を巧みに生かし、今日に見る自然主義の名園を造り上げました。その庭園は、つばきやまの名にちなんで「椿山荘」と命名。ホテル椿山荘東京の歴史はこれを起源とし、当時明治天皇・大正天皇をはじめ政財官界の第一人者たちがしばしば訪れ、国政を動かす重要会議が開かれるなど、歴史の表舞台として登場していきます。

その後は、山縣公爵からこの名園を譲り受けた、関西財界で主導的地位を占めた藤田組の2代目当主・藤田平太郎男爵が、三重塔をはじめ歴史を偲ばせる文化財の数々を随所に配置。その風情を一段と高めるに至りました。自然を何よりも愛し、山水を心から愉しんだ山縣公、そしてその意志を受け継ぎ庭園維持に尽力した藤田男爵の想いを継承し、皆様とこの森のような素晴らしい庭園を共有できれば幸いです。



\*ホテル椿山荘東京の歴史につきましては、館内ショップで販売中の「椿山荘 歴史」に詳しく掲載しております。庭園散策の折、ぜひご覧いただければ幸いです。

## 史蹟・景勝

### 1 三重塔「圓通閣(えんつうかく)」

(国登録有形文化財)

平安期の歌人として名高い参議・小野篁(おののたかむら)ゆかりの寺院、広島県賀茂郡の篁山(たかむらさん)竹林寺に創建されたものをその起源とする三重塔。それが、大正年間



の強風により二・三層目が大破した状態であったところ、藤田男爵の目に止まり、大正14年目白の森に移築され現在に至ります。建築工法や細部の様式から、室町期の作と推

定されますが、平清盛が第1回目の修復を執り行ったという言い伝えもあり、創建の謎はいまだ明らかにされておりません。平成22年には移築後初となる大改修を行い、新たに本尊として聖観世音菩薩(しょうかんぜおんぼさつ)を奉安。臨済宗相国寺派・有馬頼庭管長親下による落慶ならびに入仏開眼法要を執り行い、「圓通閣」と名乗るところとなりました。圓通とは、圓通大士すなわち観世音菩薩の異称で、圓通閣は観音堂を意味しています。

### 2 般若寺式石灯籠

鎌倉後期の逸品。江戸期の茶人や造園家の間で「名物の灯籠」の一つとして人気を得ていた「般若寺式」の石灯籠。その評判ゆえ、多くの模作が造られましたが、昭和53年石造美術研究の権威・川勝正太郎博士により、椿山荘の灯籠が鎌倉期に造られた原作であり、奈良県般若寺に現存するものはその写しであろうという調査結果が発表されています。

### 3 伊藤若冲 羅漢石(いとわじやくちゆう らかんせき)

江戸中期の画家・伊藤若冲の下絵による五百羅漢の内の20体で、京都南郊伏見の石峰寺に置かれていたものと伝えられています(像高約50cm)。



### 4 長松亭(ちようしょうてい)

電力業界の長老松永安左エ門翁に設計を依頼して1954年(昭和29年)に完成した、松永翁好みの茶室をベースに現在は一部改築を加え、錦水内の個室としてご利用いただけます。

### 5 残月(ざんげつ) (国登録有形文化財)

箱根小涌谷の藤田男爵の別荘に男爵が表千家の茶室「残月亭」を写して建築したものを、昭和22年に移築しました。平成16年、国登録の有形文化財(建造物)に指定。



### 6 椿山

古来より椿が自生することから「つばきやま」と称され、江戸期には有数の行楽の地であったその往時を偲び、多くの銘ある椿を植栽した一帯。山縣公ゆかりの山口県萩市から贈られた椿もその花を咲かせています。



### 7 御神木

樹齢約500年、ホテル椿山荘東京最古の椎の樹木。根本周囲は4m50、樹高は約20mに及びます。

### 8 幽翠池(ゆうすいち)

庭園造営当初からの池で、瓢箪型の形が特徴的。整備を重ね、現在も往時の面影を残しています。

### 9 雲錦池(うんきんち)

命名は対岸に桜、楓が多く、かつて春秋に水面が染まるばかりの美しさとなったため。庭園造営当初からある池です。

### 10 聴秋瀑(ちようしゅうばく)

幽翠池から流れる水が、苔蒸した岩間からたぎり落ちて作る小さな滝。庭園造営当初は大滝でした。

### 11 古香井(ここうせい)

古くから東京の名水に数えられた湧水が自噴する井戸。秩父山系からの地下水が湧き出ているもので、ミネラル・カルシウムを豊富に含んだ弱アルカリ性の水です。大正12年の関東大震災時には、被災者に開放され、その渴きを癒したと言われています。

### 12 ほたる沢

元々「竹裏溪」と呼ばれる流れのあった場所で、現在も清流を保ち、初夏には蛍が生息します。

### 13 椿山荘の碑

山縣公がこの地を入手し、椿山荘の造営に着手し始めた当時を振り返り、椿山荘と命名した際の感慨を刻んだ記念碑です。

### 14 丸形大水鉢・車石

京都府東山区粟田口から山科に通じる日ノ岡峠にあったもので、木食上人(もくじきしょうにん)・養阿正禪(やうあしょうぜん)が旅人のために造ったものと伝えられています。この水鉢は、荷車である牛車の轍が刻み込まれた貴重な敷石「車石」とともに保存されており、峠を越える人々がしばしば牛車を止め、水鉢に溢れる清水で喉を潤した往時が偲べれます。

### 15 十三重石塔

戦国時代の武将で茶人でもあった織田有楽(織田信長の弟)由縁のものと伝えられる層塔(総高4m76cm)。花崗岩製で、第1層に四方仏(弥陀・弥勒・釈迦・薬師)が彫刻されています。また、数種の層塔が混合していますが、その一部は鎌倉期の様式を示しているのも特徴です。

### 16 庚申塔(こうしんとう)

寛文9年(1669年)に造られたと伝えられる、道教の庚申信仰に由来する石塔。青面金剛像が彫刻されています。江戸初期、早稲田から関口台に抜ける野道がこの辺りにあり、その名残を今に伝えています。

### 17 白玉稻荷神社

大正13年、京都下鴨神社にあった社殿を譲り受けて移築。翌年、伏見稻荷明神から白玉稻荷を勧請して椿山荘の守護神としました。